

できることから
はじめよう！
環境にいいこと
ひとつずつ



城陽エコパートナー通信

Vol.77

発行日：令和5年(2023年)4月12日

会員数：277人(令和5年3月31日現在)

編集・発行：城陽環境パートナーシップ会議

(事務局) Tel(56)4061 Fax (66)6828

カーボンニュートラルは「ごみゼロ」から その1

文：小林委員

■5.30「ごみゼロの日」と課題

間もなく「ごみゼロの日」5月30日を迎えます。本会が発足して20年を迎えますが、この日は大野和宣会長と芦原昇副会長の誕生日です。私は本会の不思議な「縁と使命」を感じています。写真は昨年(2022年)の環境フォーラムの様子です。

「ごみゼロ」への第1課題は、「人工ごみ」をゼロに削減したい。そのためには、プラごみの削減は当然ですが、川上での生産規制が急務です。図1は、プラスチックが増えつづける生産の推移です。

第2の課題は、自然で循環する「自然(天然)ごみ」の多くが燃やして埋められている事です。このごみの多くは、生ごみ(調理ごみ)です。図2は、微生物によって分解され循環する「自然ごみ」循環を示しています。

第3は、目に見えない「熱のごみ」です。コロナ禍が収まり経済活動が活発化すると、ごみが増大します。

リスペクトするお二方は、今や「ごみゼロ」を目指して、日々闘ってくれています。このまま、放っておくと、「エントロピーの法則」に則って、やがては「ごみの地球」になりかねません。子どもや孫、後世のために気がついた私たちの使命ではないでしょうか。「熱のごみ」と「エントロピー」については、その2でお話する予定です。

■ごみの大分類

ごみには、①循環する「自然ごみ」と②循環しない「人工ごみ」があり、さらに、目には見えない③「熱のごみ」があります。しかしながら①自然ごみも現在は多くを燃やして無くなったように見えますが、質量保存の法則からして、CO₂や汚染ガスを大気に拡散し、燃えカスを埋立てているに過ぎないのです。

②の「人工ごみ」はリサイクルなど形を変えても、最後は地球上に堆積していきます。この拡散の現象を『エントロピー増大の法則』というのです。つまり、エントロピーとは「ごみ」と言っても過言ではありません。

③の目に見えない「熱のごみ」をご存知でしょうか？…次回につづく。



同志社大学名誉教授
新川達郎氏

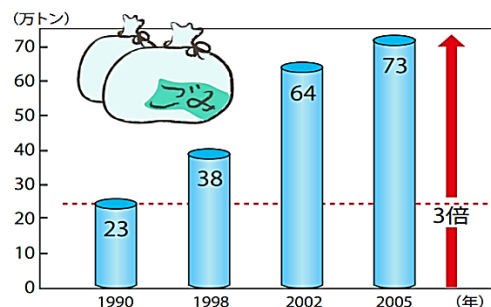
城陽市
奥田市長

PS会議
大野会長

PS会議
芦原副会長

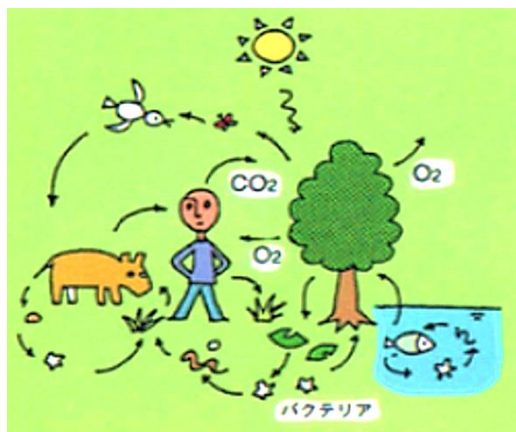
図1

●プラスチック容器の生産量の増え方



注：プラスチック容器とはプラスチック製品のうちの「容器」の生産量
資料：経済産業省経済産業政策局調査統計部編
『紙・パルプ・プラスチック・ゴム製品統計年報 平成16年版』
『プラスチック製品統計年報』より環境省作成

図2



人工ごみ



地球の環境を保持・改善する為、日常生活において、みなさんも色々取り組んでおられる事と思います。各自の生活環境によって課題を解決する選択肢が異なりますが、自動車と再エネについて考えてみましょう。

電気自動車(EV)の開発や蓄電池の技術が進み、街角には急速充電スタンドがみられるようになりました。EVが動いているのは走っている時だけではなく、停止している時、例えば停電時に約1週間分の非常用電源になります。国や自治体の補助もあり、EV車輛価格も従来車とさほど変わらなくなっています。夜間電力をEVに充電すれば、毎月の電気代を約半分に減らすことも出来ます。

自宅に太陽光パネルがなくても、再エネを売っている会社から電気を買う事で家の電気を再エネにすることが出来ます。マンションやアパートなど集合住宅でも、個別に電気を契約していれば基本的に可能というような再生可能エネルギーの普及が進んでいますが、一方で森林破壊などの環境問題を引き起こし、更には地域住民とのトラブルも多発しています。環境保全の為には、ある程度の規制が必要ですが、建築物への積極的な太陽光パネルの設置、マイクロ水力発電の設置、浮体式風力発電や波力・潮力発電への積極的な技術の展開も必要です。温暖化対策として安心・安全が解決された原子力発電の再投入も考慮する価値があるのではないかと思います。

しかるに電気自動車(EV)販売が、推奨されておりますが「自動車利用を減らすことも大切」と考える必要もあるのではないのでしょうか？

公共交通機関や自転車の利用で化石燃料使用の軽減も肝要です。



身近で簡単にできるゼロカーボンの取組み

最近の報道で、電気代の高騰の話題を耳にしますが、電気代が高騰する原因として、2つの要因が考えられます。

一つは地球温暖化の影響で、極端な気候が出現していること。かつてない寒波が日本列島に居座ることです。もう一つの要因は、戦争による世界情勢の悪化で石炭や液化ガスが思うように輸入できず、発電に使用する液化ガスの高騰で電力会社も、燃料費調整額を見直さざるを得ないということですが、戦争の影響はあらゆる場所に及んでいます。電力会社によって対応が違うものの、快適な生活がいつまでも続くのか…と常々危惧していたことが、現実になりつつあります。

1月の電気代の請求書を見たとき、要因はわからないが思っていたよりも少し高かったです。そんな現在の状況にいち早く娘が反応しました。毎月、娘の家で泊まる日がありますが、温暖化防止のため不要な電気を消しなさい!といっても思うに任せず、僕が不要な電気をパチンパチンする生活が続き、1か月前から値上げに備え、娘の家の不要電気の点灯は激減しました。

100回の省エネ研修より、直接的な値上げが温暖化防止活動に効果があることを思い知らされ、これはこれからの省エネ活動の課題だ…と、そんな感慨に浸れないほど、今後の値上げは我々の生活を直撃していくに違いありません。省エネ生活をグレードアップしても追いつけないことが想定されます。1日も早く平和が戻ってほしいし、温暖化のない地球になってほしいと強く願います。

さて、昔働いていた職場に環境に興味を持ち、進んで環境推進員等を引き受け、不要な電気の消灯をはじめとする「エコ生活」を満喫する女子職員さんがいました。彼女の生活様式が少し変化したと聞きました。現在の状況にどう対処しているのか、是非聞いてみたいものです。



立春を迎えた2月4日、さわやかな快晴の下で冬期恒例の古川野鳥観察会が開催され、41名もの参加者と一緒に、レッドリストに記載されている希少鳥類を含む計35種類を確認することができました。城陽環境パートナーシップ会議では、こうした自然観察会をふるさとの自然財産である希少野生生物の保護と生息環境保全の啓発活動の一環と位置付け、もう20年も続いており、この野鳥観察会は、誰もが気軽に始められるバードウォッチング入門の機会であります。市民参加の野鳥観察会の記録は、郷土の環境資料たる「城陽市鳥類目録」を裏付ける生息調査を兼ねた活動で、野鳥たちの背景にある生態系や自然環境を学ぶ、よい機会となり、今さかんに叫ばれているSDGsの実践にもつながります。

さて、餌が乏しい季節に35種もの野鳥たちの生息を確認できたことは、古川流域は野鳥たちの貴重な越冬地であることの証となる記録です。

『鳥は環境を測るモノサシ』豊かな自然環境には数多くの種類の鳥たちが生息することができ、またそれぞれの鳥たちには環境指標のランクがあり、自然環境の目安となります。最下層のカラスやムクドリ、ドバトでは、彼らが多くみられる所には他の鳥たちが得られる餌も限られ、種類も個体数も減少傾向となる法則です。かたや高ランクにある食物連鎖の頂点に位置する猛禽類のチョウゲンボウや水辺環境の番人と呼ばれるカワセミ、地球規模で渡りをする希少なシギの仲間、そして城陽市の鳥・白鷺の仲間の生息を観察できる古川流域のフィールドは、豊かな自然環境といえます。

2021年の観察会では、城陽市鳥類目録210種類目となるオオハシシギが確認され、今回は準絶滅危惧種の旅鳥・アオアシシギの全国的にも稀な「越冬」を確認し、特筆すべき記録を添えることができました。

かつてのヘドロ臭漂うドブ川から、四半世紀を経て野鳥の好フィールドに生まれ変わった古川も、近年は開発による生息環境の悪化が懸念されています。今回、講師陣に名前を連ねた中高生のジュニアメンバーの3名が、参加者への野鳥解説や観察記録の任を立派に果たしてくれました。これからも頼もしい後継者たちによって、末永く古川野鳥観察会が継続開催され、朗報発信が届くことを期待しましょう。

当日確認できた野鳥

・アオアシシギ・アオジ・イソシギ・カシラダカ・カルガモ・カワウ
・カワセミ・カワラヒワ・キジバト・クサシギ・ケリ・コガモ・コサギ
・シメ・ジョウビタキ・スズメ・セキレイ・セグロセキレイ・ダイサギ
・タシギ・チョウゲンボウ・ツグミ・ドバト・トビ・ハクセキレイ
・ハシブトガラス・ハシボソガラス・ヒバリ・ヒヨドリ・ホオアカ
・ホオジロ・マガモ・ムクドリ・メジロ・モズ



① 自然観察会参加者



② 準絶滅危惧種の旅鳥・アオアシシギ

撮影：田中義則



③ 古川に隣接する工場の換気口で繁殖する絶滅危惧種・チョウゲンボウ

撮影：福井惇一



④ 水質汚染の指標となるシンボル鳥のカワセミ

撮影：山中十郎



⑤ カマツカを捕らえたコサギ

撮影：山中十郎



⑥ 2021年に城陽市鳥類目録に登録された珍鳥・オオハシシギ

撮影：岡井勇樹

イベント INFORMATION



5月のバードウィークに自然観察会を開催します！

5月のバードウィークに、木津川河川敷に生息する希少な鳥類やさまざまな動植物の自然観察会と、当日は鳥の標識調査もおこないます。身近な河川の現状や生き物の観察を通して地域環境の大切さを再確認しませんか。

- ◇開催日：令和5年5月13日(土)
- ◇集合場所：木津川河川敷グラウンド(テニスコート横)
- ◇時 間：9時集合 12時解散
- ◇観察場所：木津川河川敷グラウンド周辺
- ※雨天中止(判断しかねるときは、当日8時30分～45分に事務局へ問合せ)
- ◇対 象：市内在住、在学、在勤の人(小学生以下は保護者同伴)
- ◇参加費：無料
- ◇講 師：田中寿樹氏(環境生物研究会)
- ◇持ち物：水筒・タオル・帽子
- ◇申込等：城陽環境パートナーシップ会議事務局へ直接か電話(56-4061)
- ※4月17日(月)から受付開始



今年度も開催します！ 第7回グリーンカーテンフォトコンテスト

2023年、城陽市内で応募者が栽培に取り組まれたグリーンカーテンの写真を募集します！プロ・アマを問いません。

- ◇作品の応募は1人1点のみ
- ◇応募サイズはA4サイズ(210mm×297mm)
- ◇応募締め切りは9月29日(金)(郵送は当日消印有効)
- ◇その他詳細は事務局にお問い合わせください。(56-4061)



日本観光ゴルフ株式会社
城陽カントリー倶楽部
〒610-0121 京都府城陽市寺田奥山 1-46

株式会社 玉井 開発
〒610-0031 京都府宇治市広野町西裏 30 番地 1
TEL 0774-44-3351(代) FAX 0774-41-7007

株式会社 ミズホ
砥石で、未来を磨いてゆく
〒610-0121 京都府城陽市寺田袋尻 82 番地

東城陽ゴルフ倶楽部
〒610-0121 京都府城陽市寺田奥山 1-48
TEL 0774-52-1161

次の団体・個人から賛助会費をいただきました。誠にありがとうございました。
近畿砂利協同組合、京都城陽ロータリークラブ、サントリープロダクツ(株)宇治川工場、(株)城南工建、城陽市、城陽商工会議所、城陽金融会、星和電機(株)、(株)玉井開発、日本観光ゴルフ(株)城陽カントリー倶楽部、東城陽ゴルフ倶楽部、(株)平和堂アル・プラザ城陽、(株)ミズホ、森澤博光 ※令和5年3月末現在(五十音順・敬称略)